

大正2年 日誌 文芸部

一月一日 天気濛々として雪花繽紛たりき

冬休み以来朝寝に慣れたる舎生一同も一年の計は元旦にあり、一日の計り事朝ありととか見えけん、早起する事なりき、或る者雪を冒し遠く札幌神社に参拝する者見ゆ
十時頃舎を代表して北村、小堀等宮部先生、石沢氏に年始を歴す

一月二日 天晴れ、寒気烈し

夜六時より宮部先生江招待せらる。初めは写真見、夫より舎生二組に分れ一はトランプ党、一つはカルタトーに分れ、相互に楽しむ。終に二党合し、錢廻しを為し興に乗じ過くるを忘れ帰舎せしは一時頃なりき、全生一同満腹したる様に見えたり。

一月三日 晴天

朝、雑煮の御馳走あり、其の為めか中食を中食をせざる者多くあり

一月四日 晴天

舎長来舎、親しく書籍をしらべ舎を辞せしは三時半頃なりき

一月五日 天晴れ寒気凛烈肌を裂くが如し

今日漸く図書 of 整理もつきて本棚に飾られたり

一月六日 空晴れたれど昨日より寒気強からず

一月七日 晴天にして風稍強し

今日は冬休みの最終日にて今や之までと思ひ大に遊べり

一月八日 冬休み寝坊の習慣と為りてなか 規定の時間に起きるは容易なる事にあらず
朝より電燈掛来舎して取つけを為し、其晩より初めて電燈がつく様にはなれり。

当舎も夜の如きは今までと外観を異にする様になれり

一月九日 晴天

いよ 今日より真面目に授業初まれり

徳田副舎長午後六時頃帰舎す

一月十日 毎日晴天にて吾人の悦び此上なし。夜少々降雪あり

一月十一日 天候 前日に同し。 岡田氏帰舎する

一月十二日 時々吹雪の模様あり。 豊島氏帰舎す

晩新顔ぶれの委員会あり、会終り種々問題に移りなか 興深かりき

一月十三日 太陽よき光線を浴せかけたれど寒気烈かりき

一月十四日 折り 吹雪ありて寒気骨をさす程なりき 工藤君も漸く正午頃来舎す、
今日で舎の全体の人洩れなく集まる様に到れり

一月十五日 晴天

事平凡に終り記すべき事なし

一月十六日 晴天

第二学期初まりてより茲に一週間、実に 夢の如く一週の授業を受く

本山氏は病魔に冒され無止十四日より退舎して療養怠ざりき

一月十七日 雪空晴れ渡る

農芸一年生山崎芳雄君十五日晚入舎す。吾等舎生の歓迎する所なり

一月十八日 曇天

今日土曜日なれば帰舎後皆思ひ尽に遊び廻り、夜は諸所に活動して初めて舎内稍々寂寥の感あり

今夕後競売あり、其結果左の如し

北海タイムス（一月）八銭 中川君

東京朝日（一月）十三銭五厘 小堀

万朝報（"）十三銭 徳田君

太陽（十二月）十三銭 "

冒険世界（十二月）七銭 北村君

"（一月）三銭 "

一月十九日 曉明より吹雪烈し為に諸所の人道理もて歩行の困難容易ならず。

午後一時頃よりピンポン大会催する。

東西の力相伯仲し勝負決ざりしが安達氏の剛の者ありて東軍大に勝てり

一月廿日 晴天

本日漸く図書目録不完全ながら結末を告げ図書室に備へる程に到れり

本山君も軽快の運びに到れ再び本日より入舎致され様になれり

一月廿一日 午前はかなりの吹雪なり

副舎長より除蜂書寄附致されたり

夜は月資金に就き委員会あり

一月廿二日 晴天、今まで最も寒気烈しきは今日となり、零度以下十五度内外に下れり全

室に雨洩りて困難なりと見えしかば今日デメンを頼みて屋上の雪を掻けり

一月廿三日 好天気にて夜月光冴え渡る、何ぞ其壮なる！！

一月廿四日 寒気甚だし、零度十度内外に下る。

本山君病気の為め退舎する様に到れる、茲に舎友一友を失ひて惜むべし。

北海タイムによれば田村丸廿二日座礁せりと。

一月廿五日 寒気同様に烈し

夜月次会開かれしが、吾文芸委員不止得都合の為め此の盛会に出席得ざるは深く遺憾とする所なり

一月廿六日 室内温度朝七時零下十八度

午前九時頃より舎生一同にて熊祭に行く午後一時半帰舎す。

豊島君は都合上退舎す

退舎記念として小説努力を寄附致さる

一月廿五日 補遺

委員の人名左の如し

佐藤君、岡田君、篠原君、多田君

宮部先生来舎する都合なれど偶然の用事の為め来舎せざりき

討論会の問題は本邦現今の急務として何れをとるか、内国開発か、海外発展か……両党
相半し結末つかざりき

一月廿七日 酷寒甚だし、零下十五度位なり

一月廿八日 夜委員合集り決算あり、終りを告げしは午前一時なり

一月廿九日 当日前日に比べ暖し、道路雪溶馬糞現る。

一月卅日 大吹雪ありて殆んど通行適はざる程なりき夜に一層峻烈にて家屋も吹飛さる
かと思われぬ

夕食競売あり其結果左 ず

北海タイム 十三銭 北村君

万朝 九銭五厘 篠原君

朝日 十六銭 園田君

日本及日本人 三十五銭九厘 佐藤君

一月卅一日 昨夜来の吹雪も曉明になれば風止み空は晴れたり、吹雪の為め雪屋根裏に吹
き込みて雨洩り出てたり

二月一日 晴天、土曜日なれば夜は諸兄は思ひ 遊びに行く、舎内は寂漠の感あり

二月二日 正午より撃剣の昇級試合あり

二月三日 今日非常暖く太陽の光は長閑に吾等の頭上に浴せかけた、山は一層春めき、霞
が渺ふて居った、暖い春も今少して来る様に思はれる。

二月四日 当日立春である、 意義の如き花咲き鳥歌ふ期節に入らんとする様に思はる

二月五日 今日可なり暖くあった、別に新き事実も起らなかった

二月十日 最早や大寒は去ったが再び来つ様な気がする。今曉の寒いと云ふたら御話にな
らんです。

今日桜星会遠足あった。天気よく、広い 限りない石狩の平野の雪景色を眺めるはよ
くあったと思ふが大分寒かった思ふ

今晚桂内閣総辞職の号外が来た、西園寺内閣総辞職も日浅いのに又こーなるとは！！

今晚新入舎生川島君を迎えました。

二月十一日 諒暗中にて紀元節の祝賀なかった、家々には日の丸の旗が喪章をつけて翻っ
て居った。

正午より水産科相撲及撃剣大会があった。

二月十二日 吾舎もスキー買ふてからスキー熱非常に高まって一分間もスキーあいてる事
ない程だ。

裏の坂道はスキー練習にごくよくあった。

二月十三日 曇りあんばいで割合暖く道路の雪溶けて居った。
二月十四日 今日は本当に暖くあった。春もじき来る、楽しい春が来る。
二月十五日 此頃、大分学生風紀乱れ来て、毎日新聞上に攻撃される、夫で桜星会其前後
策を講ずるといふので十時半頃授業を休んで農学経済学堂に集って口角泡を飛ばした様だ。
二月十五日午後三時吹雪があった。
内閣漸くきまった、各大臣顔觸も特筆大書しあり、また内閣総理大臣山本権兵衛さん此
度はよき種を蒔くであろう
二月十六日 夜、今度文芸部が買ふ書名を舎生諸兄の意見を叩いた、其結果五つ許り買ふ
様な都合となった。
二月十九日 夜、月次会に就きて委員会があった。
二月廿日 東京神田大火の号外が来た、なか 惨胆たるものであった、午後六時珍しく
地震があった。
二月廿二日 委員、安藤、安井、足立、山崎君等の本
夜、月次会を開きました、弁士も到って少く甚だ振はなかったが宮部舎長来舎して一光
彩を放って居った。十時少し前閉会した
二月廿四日 かなり酷い吹雪であった、水産科の方の細い道は全く雪に埋もれて通行の困
難一方でなかった。
二月廿七日 本月余す所僅か一日、随分早いものだ、三月も来る、三月休みも来る、併し
その前には関門がある、苦い関門も近づいて来て居る、今まで悠々と増して居ったイネ
ルギも少しはそがれる、よし努力だ！！
夜本月の決算を安藤君の室でやった。
二月廿八日 かなり寒かった、温度〇下十度 だ。

三月一日 夜競賣あった、大分景気が悪かった見え甚だ振はなかった、其結果次の様だ

朝日	十一銭	中川君
万朝	九銭	園田君
タイムス	六銭九厘	篠原君
日本人	七銭九厘	門野君
太陽	十三銭	徳田君

三月五日 一寸日誌を書くことを怠った、三四日つけ損なった。

三月六日 日は暖い、ぬるたい光をあびせかけ、道の雪も溶けしみ として一足毎にび
しり と気持が悪くあった。

三月七、八、九日 毎日吹雪あってなか 寒くあった。

三月十四日 大分暖くなって来た、道路も雪解けて水溜り 歩むピシャリ 飛跳ねつ
き歩きずらかった。

馬轡を引く人が雪解で輪が上らないので馬を鼓舞して居るも目に写った。

三月十五日 雪は益々解けて行った。吾等試験もいよ 迫ってきたと云から少しはあぶらを取られる。併し今田君の方は今日試験をいたので大分愉快らしかった。

今田君今日東京方へ向って舎を去った。

三月廿一日 副舎長は俄かに里より電報が来たので直ち帰省された、其内密は母堂が病気の様です。

三月廿四日 明日一日で試験がすむのだ、大に努力すべきだと云ふで奮闘したのも大分舎生 見えて居った。

三月廿五日 いよいよ試験がすんだ、嗚呼楽しい、一週間の苦闘も此今日で忘れる程であった。

明日より春休みだ、自由の身だ、朝もゆっくり睡られる。

山崎君今朝帰省

三月廿 日 今晚六時頃例の如く月次会開かれた。宮部先生、石沢氏、徳田副舎長が居らんで非常に寂しくあった、一寸の雑説と錢廻して此の会を閉じた、十一時、皆室に帰って床についた。

工藤君は帰省した、同じ北村君と

(根本君は十九日旅行に出発した)

三月廿八日 今日は寄宿舍の内閣更迭のだった。尤僕は新米として見習為月末決算に参加した、然し、一二度算盤持ったのみ、後でコンパをやった、籤に僕と安藤君あたって寒いのに停車場通り辻林檎を買いに行った。

多田君、門野、安藤君火鉢を廃す

三月廿九日 今日は非常に立派な天気であく春の様な気だった、中食後、多田君より舎生に林檎を奢った、之れを食ひ俣し十人一緒に遊園地の方に散歩しに行った。

三月卅一日 北村君帰舎

四月五日 徳田副舎長の帰舎

中川君火鉢廃す

四月十日 根本君夕方帰舎ス、食事なし

四月十二日 今日は午後から室替をした、手拭にて鼻を包む者もあればシャツ一枚の者もある、布団を持つ者、机持つ者、書物箱持つ者廊下に満ち て円で戦場か火事場の様だ、常に変わらぬ塵でいやになった。

四月 日 今日は朝早くから黒板に大々的奮闘を希望すとの掲示あった、皆の人は、洋服に、靴や足袋、鞋等を履いて表の方に出て働いた、此の中で一番奇抜なのは林君だ、雪の時用のわら靴であった。十時半頃菓子と林檎の饗応があった、随分うまかった、皆の大々的奮闘によりて仕事が非常に早く済みた、黒板の掲示見た時は海戦でも開かれるかと思ふ感がした、今日は多田君が一番働いた様に見受けられた。

篠原君火鉢廃す、根本君旅行に出る。

東京朝日新聞四月分十二銭五厘 多田君

萬朝報 四月分 八銭 上杉君

北海タイムス四月分六銭五厘 佐藤君

太陽 六銭五厘 蘭田君

四月十六日 徳田副舎長及奥村君火鉢を廃す

四月十七日 佐藤君火鉢用ゆ

四月廿日 今田東一君帰舎す、委員会開く

今日は日頃になき長閑の日にて何となく今日一日の間に榆の芽の膨れたる感がした

殊に日曜なので種(々)の人は用達に散歩しに彼処、此処に歩いて居る、植物園の中には綺麗な女や可愛男の子や鬚の生へたゼントルマンや沢山入って居った、芝は青くなって白鳥は白かった。

四月廿一日 工藤君帰舎、夕食せず

四月廿二日 昨日の委員会にて定つたるに依り今日は朝より爺や御見舞の金各人十五銭宛徴集して一円五十銭集った、これに一円五十銭文芸部の金を立て替へて三円として午后病院に見舞に行った。

四月 日 午前中は風雨強く、榆の枝幹を鳴らし硝子窓を打った、顕微鏡覗て居ても何か気持が悪かった、午後になって晴れた、今日は風呂があったので小生は火を燃やして風呂へ入って居った、漸くして、工藤君、バーや玄關に人が来て居る様、其の用はバーやに病院より来て呉れとの事であった、飯炊之時なので小生にバーや見て呉れと頼みたるが未だ風呂入って居たから上ったら見てやるが今はと辞し誰かに見て貰って病院に行き見るがいゝと言った、其の番人にあたったのが篠原君と工藤君であった、小生も風呂より出て飯の事に少し干渉した、飯は遂に出来たので小生はオルガンを鳴して居った時にバーやは眼を赤くして泣いて帰って小生の前に来てジーや死んだと云ったので之れには小生も非常に驚いた、昨日見舞に行った時、殆んど良くなってすぐ退院でもしそ一話しだったので今日死せんとは誰も思はれん、死去は三時半頃にて車屋がバーやを呼びに来着せし頃は、既に最後の呼吸せし有様なり、嗚呼悲しいかな。

万事は国谷駢隊長の指揮を受けたる如く、其夜直ちに病院より引き取り僧を呼び、枕教を供へた

寄宿舍より五円の香典として供へた。

病氣見舞未納者

安藤、川島、中川、吉田、今田、林、山崎、根本

五月二日 根本君帰舎す、夕食なし

五月十三日 夜蘭田君 邸に行く

五月十五日 朝上杉、工藤、林諸士修学旅行に出発す

五月十七日 夜右三人帰舎す

五月廿三日

東京朝日	五月分	十一銭	多田
	六月分	十五銭	多田
萬朝報	五月	十一銭	佐藤
	六月	十一銭	北村
北海タイムス	五月	八銭	徳田
	六月	七銭	篠原

太 陽四月八銭北村 五月九銭小堀

五月二十四日 月次会兼坂本君徳田副舎長の送別会を行ふ、副舎長として佐藤秀太郎君撰
ばる、委員諸君は

工藤君、中川君、関村君、佐藤君

五月廿五日 送別会記念写真撮影す

五月廿四日 副舎長送別記念として硯箱一個を贈る（三円二十五銭）

六月二十三日 山崎君帰省

六月二十七日 工藤君、上杉君、小堀君、林君、篠原君帰省

六月二十八日 奥村君帰省 佐藤君

七月一日 門野君樺太に向ケ出発、中川、中島両君

七月三日 今田君オコツクに向け出発す

小堀君無事帰省の報あり

七月五日 徳田副舎長帰省せらる

園田君旭川に行く

七月九日 安藤君、岩田君北村農場へ行く

七月十三日 根本君業終へ目出度錦を着て故郷へ帰らる、午後二時を過ぐる十七分なり

七月十九日 安達君朝五時帰省

七月二十日 安井君留萌郡オピラシベ原野なる寧楽農場へ向ふ（九時）

根本君より帰省の報あり

七月二十二日 門野君樺太より帰舎す、時に三時半

七月二十四日 午後四時北村農場より岩田君、安藤君、帰舎す

岩田君夕食後退舎す

七月廿八日 門野君北村農場に向ふ

八月一日 海妻君仮入舎す

八月二日 午前四時壮瞥へ発

八月七日 午前八時海妻君旅行二出発す

八月九日 山崎君帰舎す（夕食あり）

八月十日 園田君早朝舎二立ち寄る、任地石狩国旭川より一日の暇を得、銭箱海水浴清遊の途なりと。朝食を共にす。晩食も再び共にす。久しぶりにて四人一同に会するを祝ふてソバをとりよせて食ふ。同夜十一時任地二向ふ。

八月十一日 昨夜より胸苦しく外痢しきりにて臨時文芸委員たる拙者大に閉口す。そばをあまり祝ひ過ぎたるなるべし。一日を呻吟裏に暮らす。夕方二至り愈々烈しく為に拙者年来の主義を曲げ山崎君をわずらはし、医をむかふ。伝染病にあらざりしを幸とせり。床中目さむれば「安井君」の声す。

君、今夕寧楽農場より帰舎したるなり、晩食あり。

八月十七日 多田君帰舎す、食事あり

〃 二十一日 門野君帰舎す、食事あり

八月二十三日 午後十二時帰舎す、徳田旧副舎長（食事二十四日より）

八月二十四日 安井君忍路の今田君のもとに出発す。

八月二十五日 多田郡北村牧場に向ふ。

八月三十日 佐藤君昨夜十一頃帰舎す。同君の室に招かれ御国みやげをふんだんにくらったり。

八月三十一日 安井君帰舎す。

八月三十一日 園田君昨夜帰舎す、客膳晩夕食する

八月三十一日 徳田君客膳晩一つ

九月五日 多田君帰舎す

九月五日 北村君旅行に出発す

九月六日 徳田君退舎せらる

九月六日 田村実生君新二入舎せらる

九月六日 中川君退舎せらる

九月七日 今田君退舎せらる

右両君とも九月五日帰舎せられたり

九月七日 田村実生君入舎す

九月八日 庄田真次郎君入舎す

九月八日 石井四郎君入舎す（食事ナシ）

九月八日 武市和夫君入舎す

〃 〃 石橋操君入舎す

〃 〃 清水純成君入舎す

九月九日 工藤君郷里より帰舎、即日退舎す（食事なし）

九月九日 上杉君帰舎す。同君の室にて一同越後ナシノ御ちそうになる。

九月九日 山本勲君入舎す

〃 〃 入鹿山成樹君入舎す
九月九日 北村君旅行より帰る
九月十日 亀井専次君入舎す
九月十一日 北村君再び旅行
九月十二日 篠原新英君帰舎す
九月十二日 林君帰舎、即日退舎す
九月十四日 小堀九平君、北村君帰舎す、北村君夕食せず
九月十五日 安達君、園田君帰舎す
九月十六日 十五日の夜月蝕なるを以て今夜に月見を延し皆に枝豆やきびの御馳走ありて満腹の状を来す、其の後庄田君より仙台名産の御馳走ありて後は舎生殆ど一同円山神社に月見に出掛けて神社に詣で社前にて佐藤君初め走る雲を見て、雲々々として走る、と咏み後、月月々として光る、風風々々として吹く等の名句出でたり
九月十一日は、委員会を開き門限及勉強時間及び新入生歓迎会其他衛生部の事や一般の注意事項を議し閉会す
九月十九日 新聞競売す
東京朝日七、八月分 十五銭五厘 佐藤君
 九月分 十銭五厘 安達君
萬朝報 九月分 六銭 多田君
北海タイムス七九月分十七銭 海妻君
今夜安藤君より小生文芸部取り返す
九月二十日 石井四郎君夕食御客膳を取る
九月二十一日 朝飯終るや園田君第一大掃除に着手して其の後皆取り掛る、十時過ぎ終りたり、篠原君のみ午后に為したり
九月廿六日 鷹野継次君入舎す
佐藤君旭川方面旅行す
九月二十八日 朝四時舎生一同起床して用意をなし、五時十五分二十一名の者一緒に札幌駅出発した、朝一番に起きたのは武市君、其の次園田君眼を醒して大声にて叫んで他は起きた。朝測候所に天気を尋ねに行きたる所、雨午後晴との事なりしも今日は終日雨降りにて狩隊は随分困難らしかった。
獲物は兎一頭にて帰舎す、六時半頃なりき
九月二十九日 佐藤君旅行より帰舎す
九月卅日 夕食後直ちに小堀君の室にて決算す、集りし委員は安達会計部主任を初め、小堀、多田、門野の諸兄にて余も其末席をけがす、十時まで時間を費し唐黍の小宴にて散会。
本月の決算は廿八日〆となしたり。

十月一日 今日は天気晴朗にして一点の雲を留めず好日和なりき、故に庄田、海妻、安藤の三氏は他一人と共に手稻登山を試む、帰途軽川光風館にて夕食をすまし七時頃帰舎す。

十月五日 快晴にはあらねど散歩日和なりき、本日円山なる官幣大社札幌神社の正遷宮式挙行せられ、舎生にて参拝する者多かりき、市街は至る所賑かにて特に夜の創成川端は賑ひぬ、門野、多田両君は月寒の附近なる瀧川に遊ぶ、此地流れも清き瀧あり、此清流に映ずる紅葉あり、絶佳なる地なりと云ふ、其他舎にありし舎生はテニスにて楽しき一日を過しぬ、何れも若き血の迸る様瞭然たりき。

十月六日 本日は午後二時より大学文武会事務所の落成式挙行せられ先建築事務に関する報告あり、次に小出文武会長及大学長の祝詞ありて式後祝の餅を教授連を初め学生生徒に至るまで分配せられたり、午後は殆どテニスにて皆愉快に過し、二三の舎生は夕食後円山神社に参拝せり。

十月七日 土木工学科一年級生徒小河原義雄君今晚入舎せらる。

十月八日 札幌神社の御輿行列を整へ午後三時頃舎を通過し舎生の或者は其行列を拝観す、夕食後新聞雑誌を競売に付し其結果左の如し

日本及日本人（七銭）武市君

万朝報十月分（十銭五厘）篠原君

北海タイムス（十六銭）篠原君

東京朝日（廿四銭）佐藤君

十月九日 夕食後舎生一同第十二号室に集り学僕に関する相談をなし其結果学僕を廃し、舎生一同交代にて掃除及其他をなす事に決す

放課後庄田君を初め安井、石橋、武市、亀井、北村の諸氏柔道歓迎会に臨む。

十月十日 今日天候不如意なるにも拘らず予科生百五十名は幾春別方面に修学旅行をなす、舎生中、小堀、入鹿山、亀井の三氏同行す。

十月十一日 昨日まで暴れ狂ひし風雨は枯れたる草葉に、或は紅葉に名残を止めしのみにて心地良き許り秋空高く打晴れ、舎生一同の定山溪旅行が前途を祝しぬ、九時二十分先発隊として安井、安達、安藤、庄田、木村、園田、篠原、北村の八名各自特有の旅装を整へ舎を出づ、途中、水害にて荒れはてたる悲惨なる状及紅き衣を着たる小山、点々と散在する農家等を望み、馬鉄の線路に沿ひて行く事参里にして石山村に着す、時は十二時、安井、安達、（安藤）木村、篠原、園田の諸君は豊平川の左岸を、庄田、安藤、北村の三人は右岸を進み簾舞村の一林檎商店にて再び会し、此处にて午食をなす、是より進むに及び奇山出没し、溪流鏘々として山間に反響し満山の紅葉爛然として紅を吐き其美艷陽たる花に勝れるの感ありき、五時頃高山温泉に着す、直ちに先発隊食事委員は食事の準備に着手し、他は入浴して本隊の到着を待つ、本隊は其スピード迅速にして一時頃の出発にも拘らず、六時頃高山に着す、先発隊は本隊を迎へ、十八名にてアツタホームを開き愉快に食事をなし、食後は全体にてヘボノケ、名差その他様々の遊戯をなし興に入る。今宵は寒さ厳しかりしが此仙境にありて明月を仰ぎ見たるは実に痛快なりき、十

二時頃皆就寝せしが、室狭きと夜具の少きとには閉口したり、後発隊（本隊）の氏名は左記の如し

佐藤副舎長、門野、多田、田村、石井、東間、清水、武市、小河原、海妻の諸兄。

十月十二日 朝は四時頃より皆醒め入浴を初め、朝食は七時頃済まして各自自由行動をとる、早昼飯にて十一時半高山を出て帰途に着く、今日も快晴にて好日和、日曜学校の生徒も相前後して一の沢、滝の沢、盤の沢、板割の諸橋を経て簾舞小学校に二時頃着く、此処より道を転じ橋を渡りて豊平川左岸に出で紅葉して飾られたる秀麗の地を歎賞しつつ三時石山に出づ、此時隊は3部分に別れ一隊は東に石山の先にあり、最後の隊は生等の後方にあり、安井、安達、田村、門野、武市、北村よりなる一隊は（即ち生等の隊）中央部隊なりき、石山よりは昨日の如く鉄道馬車の線路をつたいてすゝみ五時半舎に着す、唯二日を費せるのみの旅行なりしが皆一致の精神を欠かざりしが故予定以上の満足を得たるは特に記載すべき事なり

十月十三日 本日新賄婦挨拶の為夕食後來舎副舎長に面会の上帰宅す

十月十四日 新賄婦本日午前中に子供と共に入舎す。

大学文武会の歓迎会の為新入生野上、入鹿山、亀井、高野、東間、清水、森、小河原、石橋、田村君の外多田門野両君は真駒内に行く、庄田、安藤の両氏は月寒に一日の遠足をなす。

十月十七日 朝来雨模様にて祭日なりしが、午前十時、大学図書館にて吉井博士の勤続二十五年祝賀会催さる、出席の学生生徒には記念画はがきの配布ありたり、夜は雨天にも拘らず午後五時集合、全六時三発の号砲と共に長蛇の如き提灯行列は正門を出で豊平館に向ふ、豊平館にありては互に提灯を振り相呼応し教授学生の別なく興を し再び九時頃大学校庭に帰り饅頭を頂戴して散会す、集る者約二百人！！

十月十八日 昨夜の提灯行列の慰勞の為本日休業す、清水、武市、石井の三氏午後参時頃より石狩見物に舎を出づ。

十月十九日 一兩日前よりの雨、今日も止まず実に鬱陶しき日なりき、三発の号砲を楯とも力とも頼み門野、角田、入鹿山、亀井、北村の諸氏午食後直ちに舎を出で月寒奈良原式飛行機飛行場に向ふ、霧雨肌を湿したりしが道路も割合能く幾何もなくして飛行場（月寒練兵場）に着す、丁度演説最中にて飛行機に関する講話的説明を聞き半時間ならずして痛快なる飛行を観る、実に痛快！！！！痛快！！！！なりき、場内二週の飛行終了後再び説明を詳細にきゝ帰途に着き四時半帰舎す、昨日の石狩行一行も夕食頃帰舎す。

（欄外に記入の分 十月廿日 本日鈴木新賄婦入舎）

十月廿日 本日石井四郎君都合により退舎、本大学植物学教授理学博士大野直枝氏本年八月頃より須磨別荘にありて療養中の処、本日逝去せられたりとの悲報に接す。

十月廿三日 久しく此寄宿舎に雇はれ居りし賄婦島田冷子は義子富士子と共に午后二時の汽車にて懐かしき札幌を去り帰国の途に着く、舎生にて見送し者は、安田、門野、多田、田村、安藤、庄田、北村の諸兄なりき

十月廿四日 門野君は今朝九時頃製造実習の目的を有し石狩に向ふ、小堀、篠原、野上、
亀井、入鹿山の諸氏予科の発火演習に参加して白石村方面にて青年寄宿舍生の武者振を
世人に示せり

十月卅日 本日手稲山に初雪降る、今日より安藤君火鉢を使用す。

十月卅一日 今朝札幌にも初雪降る、本日より園田、鷹野両君火鉢使用

十一月二日 今日は日曜日にも拘らず、水産科生徒は軽川、銭函方面に兎狩を催し、当舎
の清水、武市君も参加、獲物は四疋なりしと。

十一月一日 水産科生徒の兎狩明日に延期されし為突然四時頃より室換をなす。

十一月三日 夕食後競売をなし其結果左記の如し

ミ中央公論 十月分 八銭 入鹿山君

ミ太陽 十月分 七銭五厘 庄田 "

ミ北海タイムス十一月分十一銭五厘 篠原 "

ミ萬 朝十一月分 十一銭 入鹿山 "

ミ朝日 十一月分 廿銭 木村 "

門野君今夜石狩より帰舎

十一月八日 本月一日開会すべき創立第十五回祝賀記念会は宮部先生の御都合により本日
に延期せらる、本日午食後は各係員は準備に忙しく会場係は万国旗や華やかなる記念会、
第十五回創立記念、Wellcome 等の額を以て入口や会場を飾り廊下には萬旗（国）を吊
り会場の三方の壁は又幔幕をもて装ひ、余興係は今夜の芝居の準備に忙殺され、接待係
は林檎、菓子の購入に右往左往の有様、食事係は昨夜より着手せる為忙殺されたりと称
すべきにはあらねども各自料理法及皿の配置に関し種々工夫を凝したり、其結果万事好
成績なしが、唯茶碗むしのみは殆ど失敗に終らんとする状態なりき、即茶碗むしは本年
も昨年の如き始末ならんも食事係一同をして寒心せしめしが、規定時刻の三分前に持来
りしかば一同をしてホット安堵の胸を撫で下さしむ、時計正六時を報ずるや舎生のベス
トを尽したる山海の珍味にて飾られたる食卓に宮部舎長来賓を初め舎生一同着き、一家
団欒の娯楽を恣にし和氣藹々たる内にをなす、七時半開会、次の順序にて挙行せらる

一、開会の辞

一、諸報告 運動部 文芸部、会計部会況

一、舎生祝辞

一、舎長祝辞

当日来会者は宮部先生、森広氏、石沢達夫氏、徳田義信氏、工藤吉の助氏、上杉恒栄
氏の六名にて工藤氏の外皆祝辞を述べらる。

一、来賓祝辞

一、閉会

九時半頃より余興に移り、其順序左記の如し。

- | | |
|---------------|---------------|
| 一、尺八 安達、上杉君 | 一、手品 小堀君 |
| 一、芝居 ドノ字 | 一、琵琶歌 亀井君 |
| 一、鍛冶屋 入鹿山 | 一、芝居 万随院長兵衛 |
| 一、劍舞 小河原君 | 一、皿まわし 木村君 |
| 一、抽籤 舎生一同 | 一、狂言 園田君 |
| 一、手品 田村君 | 一、劍舞 佐藤君 |
| 一、芝居 人間万事塞翁の馬 | 一、ダンス 野上・入鹿山君 |
| 一、手品 鷹野君 | 一、詩吟 清水君 |
| 一、芝居 大磯の浜 | 以上。 |

余興は大成功にて特に役者中先生の称美の辞を給はりしは武市君なり。来賓は十一時及十二時頃帰られしが、閉会は殆んど二時なりき。

十一月十一日 本日水産名越正弘君及水産二年関戸義雄くん入舎、安藤龍雄君は今回退学の上、今晚七時廿五分列車にて帰京の途に着く、あゝ君も亦札幌を訪ねし折も得がたからん!!!

其後を追ふて小塚君第十二号室に入る。

十一月十五日 本日清水純劼(成?)君退舎

十一月十六日 本日秋元右左次君(林実一年)入舎。

十一月廿六日 本日野上君退舎。

十一月廿八日 東間巖君本日退舎す

十一月廿九日 今回当大学長閣下には交換教授なる光荣ある月桂冠を戴き不日渡米せんとす、為に本日午前十時半より学生生徒を図書館に集合せしめ一條の訓話及送別の辞を述べ、嗚呼学長閣下はご健在にしてご使命をはたし元気旺盛に御帰国なされん事を衷心祈る次第なり、本日午后は、大学の雄弁会催さる、都会にて

〔一コマ(38コマ目)撮影モレか?〕

り本日決算をなす、而本月は記念会ありしにも拘らず、比較的廉価なりしは皆懐になる所なりき、但かにやの菓子代のみは舎の寄附を仰ぐ。

十二月一日 本夕の競売の結果左記の如くにて近来稀なる好成績なりき。

東京朝日十二月分	十八銭	入鹿山君	
北海タイムス(十二月分)	八銭	園田君	
萬朝報十二月分	十参銭	関戸君	
太陽十一月分	十参銭五厘	関戸君	
南進乎北進乎(十一月増)	拾銭	秋元君	
中央公論 十一月分	拾銭	秋元君	
正田君寄附の部	太陽十月分	三銭	入鹿山君
	生活(十・十一月分)	十銭	秋元君

農業世界十月分 参銭五厘 田村君

十二月三日 既記の如く本日午後七時廿五分農科大学長佐藤博士は幾千の内外貴紳婦人学生等より見送られ札幌出発交換教授として渡米の途に就けるが、出発に先ち農科大学文武会員数百名は其行を壮にせんとて午後五時半苗穂町なる同博士邸に参集し提灯行列を催し六時廿分頃楽隊を真先に博士及夫人令息を中心に肅々と停車場へ向へるが千余の提灯の美観言ばかりなく壮烈なる軍歌の叫び轟々六時半停車場着一同万歳を三唱しプラツトホームに整列、此時見送の官公吏会社商店を初め内外の紳士淑女等場に満ち博士は一々鄭重に答礼し、定刻に到るや婦人令息等と同情、万歳声裡に出発せり。

十二月十日 前副舎長なる徳田義信氏には今般九州阿蘇農学校教頭として赴任する事に決し、本夕夫人同伴にて出発、宮部舎長を初め、見送人多く当舎生も皆見送る。

十二月二十一日 本日は午後六時より忘年会を兼ね月次会を開く、最初は新入舎生の各自の感想及生国史談あり、次に今回独乙より帰朝せる畜産科助教授高松正信氏には独乙の大学及独乙の大学生の状況に就き有益なる且面白き御講話をなし下されたり。宮部先生は、本年の凶作に関し専門の学理より種々御意見を述べられ、強ち凶作は悲観すべきにあらず却て其結果北海道に特に適する品種を作り得るやも量り能きと云へり、茶菓後十二時過ぎまで例の如く楽しく騒ぎ過す。

十二月二十二日 武市君にはトロールに乗る為本に室蘭に向つて札幌を出発す。

十二月廿三日 田村君本日留萌方面に旅行す

十二月廿四日 本日土木工科一年生小中勇作君入舎

十二月廿九日 本日水産科一年級熊谷美樹君入舎

十二月卅日 本日夕食後新聞雑誌の競売に対し其結果左の如し

代金済 中公(十二月分)八銭五厘 秋元君

太陽(十二月分)八銭五厘 小堀君

ス朝日(一月分)四十一銭五厘篠原君

十七日ス萬朝(一月分)二十銭五厘 入鹿山君

ス北海タイムス(一月分)十八銭篠原君

ス絵はがき(一組)十銭 小河原君 一月三日

十二月卅一日 本日より委員安達貞三郎

大正二年最終の日なるを以て夕食後七時頃より委員会を開く、茶菓、蜜柑、そばの饗応あり、後余興に入る。